

【ねがいましては】

平成12年10月25日

第129号

KYOWA SCHOOL

「家庭からの贈り物」

ある日の電子メールの中に、誰だかわからないメールが一つ。

今年のキャンプで、私達の教室に涙ぐましい協力をしてくれた「M」ちゃんからのものでした。彼女は今、高校3年生、都立校に通っています。毎年ほとんど一緒にキャンプを行なっている（京橋珠算研究所）の卒業生です。何かと思ったら、公務員試験の結果報告でした。今まで6個受験したが、すべて不合格だったとのこと。あらためて現実の厳しさに、私も身が引き締まる思いです。キャンプから帰ってきて、2学期が始まるまで、彼女はここ、新浜へ通いました。墨田区に住んでいる彼女は、いろいろと交通費のかからないルートをさがしながら来ました。

地方公務員の初級なのだそうです、「初級」という文字に少々私は楽観視しすぎたようで、質問されてはじめて、「……………」打ちのめされました。中学の教科書では到底太刀打ちできないものばかりなのです。もちろん高校分野のものも多いのですが、全くふれたことのない、新傾向の問題が数多くありました。

「公務員になるのって、こんなに難しいの？」というのが私の率直な感想でした。でも、勉強は難しいのですが、お昼などは、毎日通ってくる中学生たちと、食パン、キャンプの残りのジャム、ロースハム、飲み物だけなのですが、美味しいのです。中学生の「J」ちゃんは、「先生、ビックリだわ、私がパン3枚食べてる。」

「M」ちゃんは、日頃はひとりで向かっている勉強も、ここへ来ると楽しい楽しいと言ってくれました。私は内心自分が問題を解けないでいることが少し引がかかって、そこまで楽しくなかったのですが、彼女の表情は、「これが学ぶことなんだな」ということを、教えてくれました。

「家庭的」、我が家はそうなんだ。みんなでぶつぶつ会話しながらの食事は、きっとこの子に何かを贈っているんだ。どのような形であっても、助けることができる、お手伝いができる。

私の教室の、最も大きな「伝えたい」が、「心」・思いやる心・優しい心。私の中では、もちろん勉強が「わかった」と言ってくれることもとても嬉しいのですが、それよりなにより、「心」の中身を軽くできたことへの満足感が、私を幸せな気持ちにさせてくれました。

ちなみに、「M」ちゃんは、3歳か4歳の頃、お母さんと離れて、父親と2人でつい最近まで生活してきたそうです。そして今は、新しいお母さんが来られ、3人の生活が始まったと言うことですが、今まで面倒見てきた父の身の回りのことを全くしなくなったことに、一抹の淋しさを感じているようです。また、年齢の離れたもの同士でワイワイ話しながら食事することの楽しさもあまり経験されなかったものと思います。

「KYOWA SCHOOL」この教室は、そんな子が「ふっ」と落ち着ける居場所として、この先もありつづけたいと思います。

「先生、一番安く来る方法わかりました。葛西までバスで来て、そこから地下鉄だと初乗り運賃で住みますよ。」

実は東京都では、母子、父子家庭に対して、都営の交通機関はすべて無料になるパスがもらえるそうなのです。彼女の笑顔が思い浮かびます。

11月の予定

4日（土）・臨時休塾（連盟の先生方との旅行のため・運転手なのです）

10日（金）・珠算・暗算検定試験申し込み締め切り

22日（水）～25日（金）検定試験本番・KYOWA SCHOOL

中学生・全国統一模擬試験（別紙参照してください。教室内に掲示します。）